



先進技術を導入して栽培されるほうれん草

# 知内の肥沃な土地が育てた「しりうち野菜」

積雪寒冷地の北海道。冬季間、ほぼ野菜の出荷が出来なくなります。スーパーなどでも道内産の野菜は姿を消し、本州産のものが多く出回るようになります。そのような中、知内町産のニラ「北の華」が、鮮やかな緑色の姿で陳列棚に並び、冬の貴重な緑黄色野菜として消費者の人気を独り占めしています。

2010(平成22)年、生産販売額10億円を突破し、名実ともに北海道ナンバーワンのポジションを不動のものにした知内ニラの出荷は、真冬の1月上旬から始まり、秋まで途切れることなく行われます。冬の出荷を可能にしたのは、品種の選定・栽培技術の研究や工夫などに加え、雪の中で生産者が協力して行うビニール掛けの共同ハウス作業など、全国でも例を見ないほどの生産者の強い連帯意識・団結力によるものです。

寒さの中でじっくり育った知内ニラは、葉幅が広く色鮮やかで甘みも強いなど、食感と味の良さは抜群。これに加え、先進のトレーサビリティシステムの構築など、安全・安心を求める消費者ニーズに高いレベルで応え、揺るぎない信頼を築きました。

このほか、1991(平成3)年に生産組合が設立され、品種試験栽培や先進技術の導入など、組合員が一丸となって栽培に取り組んでいるほうれん草をはじめ、北海道クリーン農業推進協会から「イエス!クリーン」※1)の認証を受けたトマトや、贈答用としても人気のあるミツバなども大変評判が良く、しりうち野菜の名を高めています。

※1) イエス!クリーン  
北海道の農業者、農協、北海道などが一丸となり、農業や化学肥料の使用を削減して生産することを目的に道立農業試験場等により開発・改良された「クリーン農業技術」を導入して、技術導入前に比べて農業や化学肥料の投入量を削減して生産された、よりクリーンな農産物について、その栽培方法などを分かりやすく表示することにより、道産農産物の優れた点をアピールするものです。

# 原寸大の知内の幸

ニラ、ほうれん草、マコガレイ、カキ。

知内町の山海の幸は味が良く、生産者の顔が見える安全安心な

「知内ブランド」として、

全国の人々から愛されています。

その素顔を原寸大で紹介します。

原寸大シリーズ 1



評価を高めるミツバ



生産量が伸びるトマト

葉幅が広く色鮮やかで甘みも強い知内ニラ・北の華

